

昭和音楽大学短期大学部音楽科の収容定員変更における
学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	4
ウ 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等	8
エ 学生確保の見通し	11
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	16
(2) 人材需要の動向等社会の要請	19
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	19
② 上記①が社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠	26

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

昭和音楽大学短期大学部（以下、本学という）は、各々の専門分野における実践的な能力を備えた教養豊かな人材を養成する音楽科を設置している。次の3点を学科の特色として、教育研究を展開している。

1. 音楽および音楽関連の分野で社会に貢献するために必要不可欠な基礎的・汎用的な能力を固め、その上に高度な専門性を築くという、汎用性と専門性の2つの方向性が持てること
2. 12の幅広いコースを設置し、学生のニーズに合わせたきめ細やかな教育が展開できること
3. 多様な音楽スタイルを一つの学科に統合することで音楽を幅広く捉え、領域横断型の教育研究ができること

1. 志願者数・入学者数の推移

本学の過去5年間の入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等は表1のとおりである。過去5年間の志願者数の平均は112.6名であり、志願倍率の平均は1.13倍である。また、入学者数の平均は80.8名、入学定員充足率の平均は80.8%である。推移としては、過去5年間で志願者、入学生ともに概ね減少傾向となっている。但し、令和4年度から令和5年度にかけてはやや数値が上向いている。収容定員充足率については表2のとおりである。

〔表1〕 本学における学生確保の状況

	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	平均
A. 入学定員	100	100	100	100	100	100
B. 志願者数	123	152	110	84	94	112.6
C. 受験者数	123	151	110	82	92	111.6
D. 合格者数	111	135	95	78	83	100.4
E. 入学者数	93	107	75	64	65	80.8
F. 入学定員 充足率(E/A)	93.0%	107.0%	75.0%	64.0%	65.0%	80.8%
G. 志願倍率 (B/A)	1.23	1.52	1.10	0.84	0.94	1.13

〔表2〕 本学における収容定員充足状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
A. 収容定員	200	200	200	200	200	200
B. 在学生数	194	214	201	155	133	179.40
C. 収容定員充足率(B/A)	0.97	1.07	1.00	0.77	0.66	0.89

※収容定員充足率は小数点以下第3位以下を切り捨て

2. 多様な学生の受け入れ

入学者の約3割は、19歳以上の入学者と外国人留学生在が占めている（令和4年度実績）。本学では18歳人口以外の学生確保のため、通用2年間の教育課程を3年間または4年間に延長して学ぶ長期履修学生制度の導入のほか、幅広い年齢層に親しまれている合唱の指導者育成のためのコース（合唱指導者コース）、主にシニア世代を対象に、かつて音楽を嗜みながらも学ぶ機会を得られなかった人や、音楽から離れて久しい人等による潜在的なニーズも考慮し「精神的に豊かな社会生活を送るための学修」を提供することを目的としたコース（音楽と社会コース）を開設している。

前述のように、本学では多様な学生確保が全面的に18歳人口に依存するリスクが軽減されており、高等学校・高校生以外にも、多方面からの学生の受け入れ実績がある。多様な学生の受け入れは、安定して学生を確保するための重要な取り組みと認識している。

19歳以上の入学者、いわゆる既卒の入学者は過去5年間の平均が20名となっている（表3）。年度によりややばらつきはあるものの、入学者に対する割合は、平均して25.1%である。

〔表3〕 本学の既卒の入学者数とその割合

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
既卒入学者(A)	26	23	15	19	17	20
入学者(B)	93	107	75	64	65	80.8
割合(A/B)	28.0%	21.5%	20.0%	29.7%	26.2%	25.1%

また、外国人留學生の過去5年間の入学者は表4のとおりである。入学者に対し、外国人留學生が占める割合は平均して3.5%である。

〔表 4〕 本学の外国人留学生数とその割合

	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	平均
外国人留学生 (A)	4	5	2	1	2	3
入学者 (B)	93	107	75	64	65	80.8
割合 (A/B)	5.4%	4.7%	2.7%	1.6%	3.1%	3.5%

3. 新コース「声とことばの創造表現コース」の開設

令和 6 年 4 月には新コース「声とことばの創造表現コース」の開設を予定しており、新たな学びの分野が加わる【資料 1】。当該コースに関心を有する新たな受験者層の獲得が見込まれる。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

1. 地域社会における教育ニーズ

本学は地域貢献活動を積極的に行い、地域における音楽文化の醸成や活性化に対する地域・社会的ニーズに応えている。以下、いくつか具体的な取り組みを記載する。

①演奏会・公演活動による鑑賞機会の提供

本学が主催する演奏会・公演は、音楽や芸術を通して地域社会の発展に取り組んでいる本学の特色を最大限活用し、かつ成果を挙げている最も顕著な例といえる。近年の来場者の年間平均は 9,700 人を超えている。また、平成 22 年度には、卒業生を中心として編成する「テアトロ・ジーリオ・ショウワ・オーケストラ」を発足させ、新百合ヶ丘の地に密着したオーケストラとして活動している。特に平成 25 年にスタートした第九演奏会は好評を博し、新百合ヶ丘の年末の風物詩となっている。

②生涯学習機会の提供

本学の教育資源を地域に提供するため、演奏会や公演活動のほか、公開講座の開講や附属音楽・バレエ教室の運営を行い、活力と潤いのある地域社会づくりに貢献している。公開講座は、受講生参加型、複数回開催するシリーズ型、演奏会と連携して講座を行うタイアップ型等講座形態は多様である。附属音楽・バレエ教室は、新百合ヶ丘地域を中心として、神奈川県内に 7 教室（新百合ヶ丘、海老名、小田原、センター北、藤沢、戸塚、武

蔵小杉)、県外に1教室(仙台)を展開し、3,000人を超える生徒が在籍している。開校して40年以上の実績があり、趣味や教養を深めたい方から音楽大学進学希望者まで、さまざまな目的を持った生徒が在籍し、一人ひとりの進度に応じて行う個人レッスンや、バレエやヴォーカル、語学等のグループレッスン等多様なコースを設置することにより、音楽に親しみ、学ぶことができる場を提供している【資料2】。

③本学施設の提供

「テアトロ・ジーリオ・ショウワ」の「ジーリオ」はイタリア語で「ユリ」を意味する。施設内にある劇場「テアトロ・ジーリオ・ショウワ」とコンサートホールである「ユリホール」は、いわば「二つのユリ」として地域での音楽活動のシンボルとして認知されている。「二つのユリ」は、本学主催イベントだけでなく、外部の演奏団体や高等学校の公演・コンクール等にも広く利用されている。

④高校生への学習支援【資料3】

本学では、声楽家を目指す高校生の学習支援を目的とした「高校生のための歌曲コンクール」を平成12年から主催している。参加者には歌唱学習についての無料相談会の実施(予選会終了後、各会場にて実施)、希望者へのフォローアップレッスンを実施している。本コンクールの本選は、本学施設の「テアトロ・ジーリオ・ショウワ」にて開催し、ステップアップの機会を提供している。

⑤コミュニケーションセンターによる地域連携

「昭和音楽大学コミュニケーションセンター(SCC)」の取り組みである「アーツ・イン・コミュニティ」は、川崎市麻生区を中心に、学生によるアウトリーチ活動等の音楽芸術交流活動をとおして、地域貢献と学生自身の成長を実現し、社会性を備えた音楽人の育成を行う取組みで、学生が地域の小・中学校や福祉施設等で演奏会や演奏指導を行う窓口となっている。川崎市教育委員会との連携事業「ジュニア音楽リーダー」では、本学の施設を活用し、本学の学生が川崎市に所在する全市立中学校の吹奏楽部に所属する生徒に楽器の指導を行っている。

⑥地域団体との主な連携【資料4】

・「アルテリッカしんゆり(川崎・しんゆり芸術祭)」、「かわさきジャズ」

平成21年から始まった芸術イベント「アルテリッカ」は、音楽、映画、演劇、伝統文化等、さまざまな分野の催しものをそろえた芸術祭として、毎年4月から5月にかけて開催されている。本学は、(公財)川崎市文化財団、地域の大学や劇団、芸術団体とともに、主催団体として自治体や地域の関係者と企画段階から関わっている。

・「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」

本学が所在する新百合ヶ丘の魅力を高め、地域の活性化を目指すことを目的として平成 30 年に結成された「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」に、本学は幹事会員として参画している。このコンソーシアムは、駅周辺で定期的開催している「しんゆりフェスティバル・マルシェ」や「しんゆりステーションピアノ」、秋のハロウィンや冬のイルミネーションイベント等、地域での大規模イベントを一元的にとりまとめており、本学は幹事会員として、新百合ヶ丘地域の活性化やブランド力の向上に貢献している。

・「しんゆり・芸術のまちづくり」

地域資源を活かしたまちづくりを推進している NPO 法人「しんゆり・芸術のまちづくり」に団体会員理事として参画し、麻生区役所とも連携して「芸術のまちづくり」実現のための活動を行っている。

・「川崎市アートセンター」、「川崎市スポーツ・文化総合センター」の指定管理者業務

川崎市アートセンターについては、平成 24 年度より、本学（本学の関連会社株式会社プレルーディオを含む）と川崎市文化財団、日本映画大学の 3 団体で構成する「川崎市文化財団グループ」が、指定管理者に選定されている。川崎市アートセンターは、アルテリオ小劇場とアルテリオ映像館等の施設を備えており、本学は、小劇場の企画運営及び管理業務を中心に行っている。

川崎市スポーツ・文化総合センターについては、平成 29 年度より、本学と株式会社コンベンションリンゲージ、株式会社プレルーディオの共同事業体が、ホールの企画運営及び管理業務を担当している。本学は主に文化事業制作への協力を行っている。

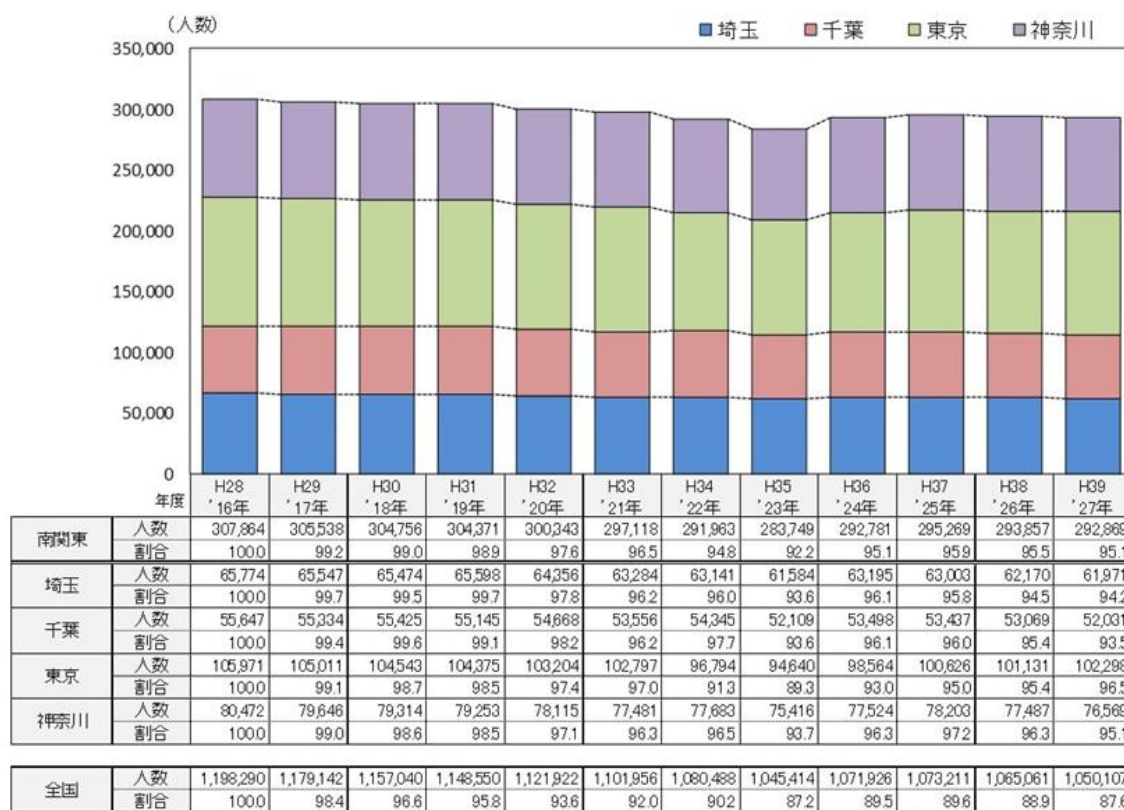
・「麻生区・大学公学協働ネットワーク」

川崎市麻生区内及び隣接する東京都町田市に立地する大学と行政との間に、互いが保有する知的資源、人材等を有効に利活用できるネットワークを構築することにより、音楽・芸術・福祉・環境・教育その他の分野において、公学連携して活動を展開し、個性豊かで活力に満ちた地域社会づくりに貢献していく事業を展開している。

2. 社会的動向

18 歳人口の長期的動向（平成 28 年から令和 9 年までの 12 年間）について、平成 28 年（1,198,290 名）と令和 9 年（1,050,107 名）の人口増減率を算出すると 0.88 倍となり、減少傾向である（図 1）。また、中期的動向（令和 5 年から令和 9 年までの 5 年間）を確認すると、令和 5 年と令和 9 年の比較において、人口増減率は 1.00 倍である。さら神奈川県・

東京都について同様の方法で確認すると、長期的な人口増減率は 0.96 倍であり、中期的な人口増減率は 1.05 倍である。全国的に見た 18 歳人口の長期的動向は減少傾向であるが、神奈川県・東京都で見た場合の長期的動向、及び全国的、神奈川県・東京都の両方で見た場合の中期的動向においては、概ね横ばいで推移している（図 1）。

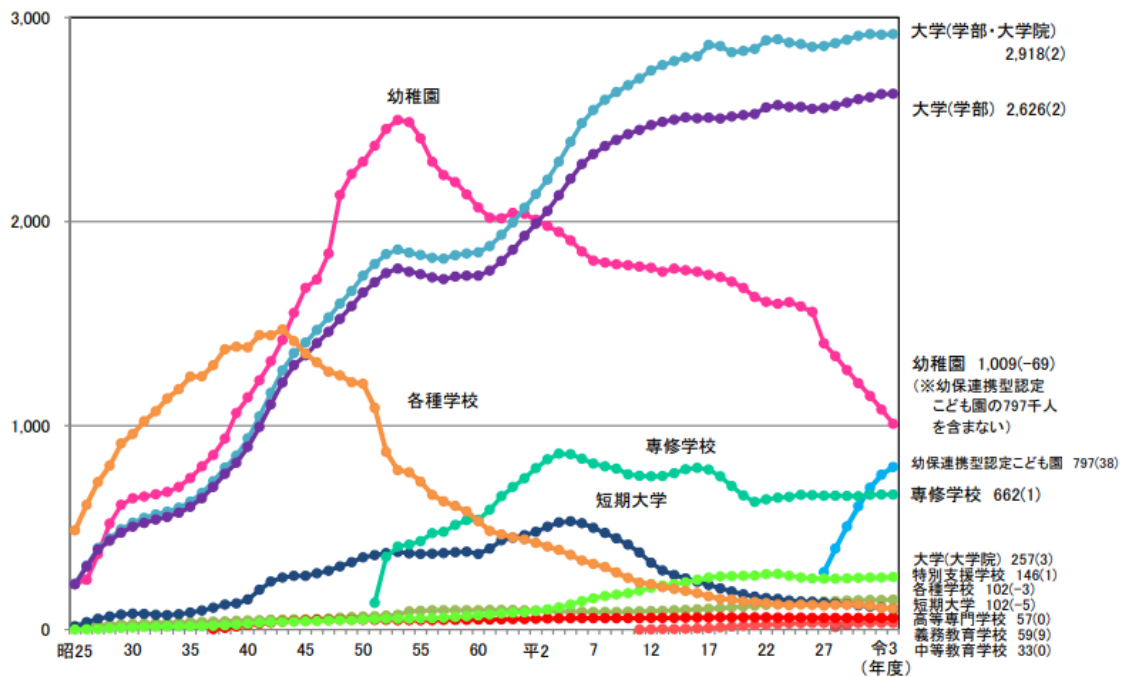


学校基本調査を基にリクルート進学総研にて作成

〔図 1〕 18 歳人口予測 2016～2027 年

※引用：<https://souken.shingakunet.com/research/2017/01/182015-bb85-1.html>

また、平成 27 年度以降、大学（学部）進学者が微増傾向であることに対して、短期大学と専修学校の進学者は横ばいもしくは微減傾向にある（図 2）。



(注) 1 ()内の数値は、前年度からの増減値(単位:千人)である。
 2 特別支援学校は、平成18年度以前は盲学校、聾学校及び養護学校の計である。
 3 大学(学部・大学院)には、学部学生、大学院学生のほか、専攻科・別科の学生、科目等履修生等を含む。

〔図2〕 在学者数の推移（令和3年度学校基本調査）

※引用：https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt_chousa01-000019664-1.pdf

一方では、音楽分野に関心を持っている高校生の割合は、学年が低くなるほど大きくなっている。表5は「収容定員の変更に関するニーズ調査報告書【神奈川県・東京都15歳-19歳サンプリング調査】(分野動向確認用)」より、高校1年生から高校3年生633名について、「音楽」分野の学びに関心ある割合を示したものである【資料5】。データの解釈に際しては、年齢・学年効果（年齢・学年の進行による個人の意識・行動が変化）に留意する必要があるが、今後の需要拡大も可能性として考慮できる。

〔表5〕 「音楽」分野に関心がある高校生 (n=663)

学年	回答数	割合
高校3年生	189	16.4%
高校2年生	210	17.6%
高校1年生	264	23.1%

※神奈川県・東京都に在住している高校生

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

本学は引き続き、特色を生かし、地域社会の期待に応える教育活動を展開するところである。しかしながら、本学の志願者、入学者の動向と18歳人口や短期大学への進学率の動向、

市場調査による現高校 2 年生、3 年生の動向を踏まえた結果、適切な入学定員充足率の達成、維持のため、当該学科の収容定員の変更（減員）を実施する。

1. 定員設定について

入学定員を 100 名から 70 名に減員し、収容定員は 140 名（完成年度）とする。

直近 3 年間の入学者数の平均（68 名）と入学定員 100 名との差は 32 名であること、表 5（「音楽」分野に関心がある高校生）で示した需要拡大の可能性及び新コースの設置による新たな需要も踏まえ、入学定員の減員数は 30 名が妥当と判断し、設定した（表 6、表 7）。

〔表 6〕 本学の入学定員 (単位：名)

	令和 5 年度 入学定員(現行)	令和 6 年度 入学定員(変更)	増減
昭和音楽大学短期大学部 音楽科	100	70	<u>△30</u>

〔表 7〕 本学の収容定員（完成年度） (単位：名)

	令和 5 年度 収容定員(現行)	令和 7 年度 収容定員(完成年度)	増減
昭和音楽大学短期大学部 音楽科	200	140	<u>△60</u>

2. 学生納付金の設定

学費については、表 8 のとおりとする。全国の音楽系統短期大学の標準在学期間納入額をもとに大きく 3 グループに分けた所、本学は上位のグループに位置している（表 9）。学生へ最適な学修環境を提供する為の判断の上での設定であるが、本学では独自の奨学金制度および学費減免制度を設定し、学生へ経済的な支援を行っている【資料 6】。なお、本学は神奈川県内で唯一の音楽科を持つ短期大学で、県内に競合校がない【資料 7】。

〔表 8〕 本学の学生納付金

年度	入学金 (A)	授業料 (B)	施設費 (C)	合計 (A)+(B)+(C)	備考/その他の 費用
入学年度	100,000	1,390,000	630,000	2,120,000	※入学時のみ 学生会費 17,500 円 同侪会費 28,000 円
2 年次以降	-	1,390,000	630,000	-	

〔表 9〕 全国の音楽系統短期大学の学生納付金（令和 4 年度実績）

納入額合計額	短期大学名	入学金 (A)	授業料 (B)	施設費 相当費目 (C)	合計 (A)+(B)+(C)	標準在学期間 納入額合計
300 万円 以上	昭和音楽大学短期大学部	100,000	1,390,000	630,000	2,120,000	4,140,000
	大阪音楽大学短期大学部	200,000	1,210,000	650,000	2,060,000	3,920,000
	桐朋学園芸術短期大学	420,000	1,114,000	327,000	1,861,000	3,132,000
	宇都宮短期大学 音楽科	300,000	760,000	630,000	1,690,000	3,080,000
	上野学園大学短期大学部 (ピアノ・器楽・声楽専門)	200,000	1,100,000	330,000	1,630,000	3,060,000
	常葉大学短期大学部 音楽科	240,000	990,000	400,000	1,630,000	3,020,000
	作陽短期大学（音楽専攻）	250,000	760,000	620,000	1,630,000	3,010,000
200 万円 以上	徳島文理大学短期大学部 音楽科	250,000	860,000	430,000	1,540,000	2,830,000
	大垣女子短期大学 音楽総合学科 (管打楽器リペアコース)	250,000	600,000	690,000	1,540,000	2,830,000
	東邦音楽短期大学 (声楽専攻、器楽専攻)	200,000	1,000,000	300,000	1,500,000	2,800,000
	四国大学短期大学部 音楽科	250,000	700,000	562,000	1,512,000	2,774,000
	大垣女子短期大学 音楽総合学科 (ウィンドアンサンブルコース・ピアノコ ース・電子オルガンコース、音楽療法コ ース)	250,000	600,000	540,000	1,390,000	2,530,000
	山口芸術短期大学 (芸術表現学科 音楽科目)	250,000	620,000	323,000	1,193,000	2,136,000
	福岡女子短期大学 音楽科	210,000	780,000	500,000	1,490,000	2,130,000
200 万円 未 満	大分県立芸術文化短期大学 音楽科（※県外で計算）	282,000	390,000	36,000	790,000	1,298,000

※本学調べ：詳細については【資料 7】に記載

3. 今、定員減をしなければいけない理由

直近 5 年間で志願者、入学生ともに概ね減少傾向となっている。直近の令和 5 年度の入学定員充足率は 65.0%であり、入学定員に対しそれを下回る入学者数が継続していること（表 1「本学における学生確保の状況」）、また令和 5 年度の収容定員充足率は 0.66 倍となっており、収容定員充足率の早急な改善が課題となっている事が定員減を必要とする背景である。新コースの設置等、募集状況の改善要因はあるが、18 歳人口及び短期大学進学率が横ばいもしくは微減の状況を踏まえ、喫緊に入学定員を需要に見合った適正な水準に設定することが必要となっている。

エ 学生確保の見通し

A 学生確保の見通しの調査結果

学生確保の見通しを得るため、オープンキャンパス等の募集広報イベントの参加者数及び満足度等をふまえた検討・分析を行った。併設する大学と同時開催でのイベントのため合算となるが、オープンキャンパスはここ数年、大幅に参加者数が増えている状況である。当該申請の対象となる高校 3 年生は、3 月と 4 月のオープンキャンパスで比較すると、令和 5 年度は令和 4 年度とほぼ同じ参加者数となっている。同様に講習会の参加者も増加傾向にあり、そのうち、高校 3 年生を 3 月と 4 月で比較すると、オープンキャンパスと同じく令和 4 年度と数字に大きな変動はみられない（表 10、表 11）。令和 5 年度実施分のオープンキャンパス・受験講習会アンケートでは、参加者の内高校 3 年生の 100%が「大変満足」「満足」と回答し、高い満足度が得られている（表 12）。

〔表 10〕 オープンキャンパスの参加者数

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	備考
3 月	中止	151 (101)	151 (83)	112 (61)	()は高 3 生
4 月	開催なし	95 (52)	95 (54)	141 (71)	()は高 3 生
5 月	中止	152	187		
6 月	135	75	96		
7 月	191	145	180		
8 月	441	389	622		夏期講習期間に実施した オープンキャンパス全体
9 月	105	83	115		
11 月	88	97	開催なし		
12 月	169	184	262		冬期講習期間に実施した オープンキャンパス全体
合計	1,129	1,371	1,708		

※個別で実施した説明会は除く。※オンラインイベントを含める。

〔表 11〕 講習会の参加者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考
1月	開催なし	77	73	79	
3月	中止	115(71)	128(69)	121(64)	()は高3生
4月	開催なし	102(66)	109(66)	132(69)	()は高3生
5月	245	121	133	6月に実施予定	
6月	126	135	182	6月に実施予定	
8月-1	342	321	294	8月に実施予定	
8月-2	69	85	77	8月に実施予定	
9月	111	86	132	9月に実施予定	
10月-1	101	86	121	10月に実施予定	
10月-2	94	114	75	実施せず	
11月	79	93	59	11月に実施予定	
12月	205	211	164	12月に実施予定	
合計	1,372	1,546	1,547		

※本学キャンパスで実施したイベントを対象とする。 ※オンラインイベントを含める。

〔表 12-1〕 オープンキャンパス、受験講習会参加者アンケート結果（令和5年度実施分）

	オープンキャンパス		講習会	
	回答数	割合	回答数	割合
有効回答数	123	100%	98	100%
1. 大変満足	85	69.1%	76	77.6%
2. 満足	37	30.1%	21	21.4%
3. 不満	1	0.8%	1	1.0%
4. 大変不満	0	0.0%	0	0.0%
満足度（1+2 合計）	122	99.2%	97	99.0%

〔表 12-2〕 オープンキャンパス、受験講習会参加者アンケート結果
（令和5年度実施分、対象：高校3年生）

	オープンキャンパス		講習会	
	回答数	割合	回答数	割合
有効回答数	56	100.0%	43	100.0%
1. 大変満足	41	73.2%	34	79.0%
2. 満足	15	26.8%	9	21.0%
3. 不満	0	0.0%	0	0.0%
4. 大変不満	0	0.0%	0	0.0%
満足度（1+2 合計）	56	100.0%	43	100.0%

資料請求者数（併設する大学とガイドブックや入学者選抜要項は同じ冊子で紹介しているため合算とする）はここ数年、ほぼ横ばいの状況であるが、令和5年4月の資料請求者数はここ数年で1番多く、入学者が75名だった令和3年4月の前年度（令和2年度）資料請求者数（852名）の1.4倍近く獲得できている（表13、表14）。

〔表 13〕 本学資料請求状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
4月	887	852	1,145	1,019	1,177
5月	1,275	775	1,200	1,156	-
6月	1,787	1,099	2,072	1,575	-
7月	1,327	1,582	1,403	1,706	-
8月	937	1241	700	898	-
9月	634	883	724	715	-
10月	1,205	729	815	866	-
11月	491	972	812	597	-
12月	642	788	757	681	-
1月	988	744	627	690	-
2月	871	633	693	595	-
3月	738	1,042	837	894	-
合計	11,782	11,340	11,785	11,392	

〔表 14〕 高校3年生による本学資料請求状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
4月	399	346	407
5月	363	325	-
6月	443	365	-
7月	250	302	-
8月	160	242	-
9月	165	145	-
10月	93	100	-
11月	108	92	-
12月	99	82	-
1月	62	69	-
2月	48	38	-
3月	29	7	-
合計	2,219	2,113	

令和4年8月より、本学の教員によるレッスンを継続的に受けることができるよう、受験対策を目的としたスクール Pathways(パスウェイズ)を新設【資料8】。その Pathways(パスウェイズ)から令和5年度は2名入学している。入室者数は現在順調に増加していることから、令和6年度の Pathways(パスウェイズ)からの入学者はさらに増加することが見込まれる(表15)。また、附属音楽・バレエ音楽教室からの入学者は、直近5年間平均で2.4名であることから、こちらも同様の水準の入学者を見込む事が可能である。(表16)。

〔表 15〕 本学が行う受験対策スクール 体験レッスン参加者・入室者数

	体験レッスン 参加者数（延べ）	入室者数 （延べ）
令和4年8月	3	-
令和4年9月	22	5
令和4年10月	11	13
令和4年11月	13	9
令和4年12月	9	8
令和5年1月	11	4
令和5年2月	11	8
令和5年3月	5	4
令和5年4月	22	11
令和5年5月	17	12
合計	124	74

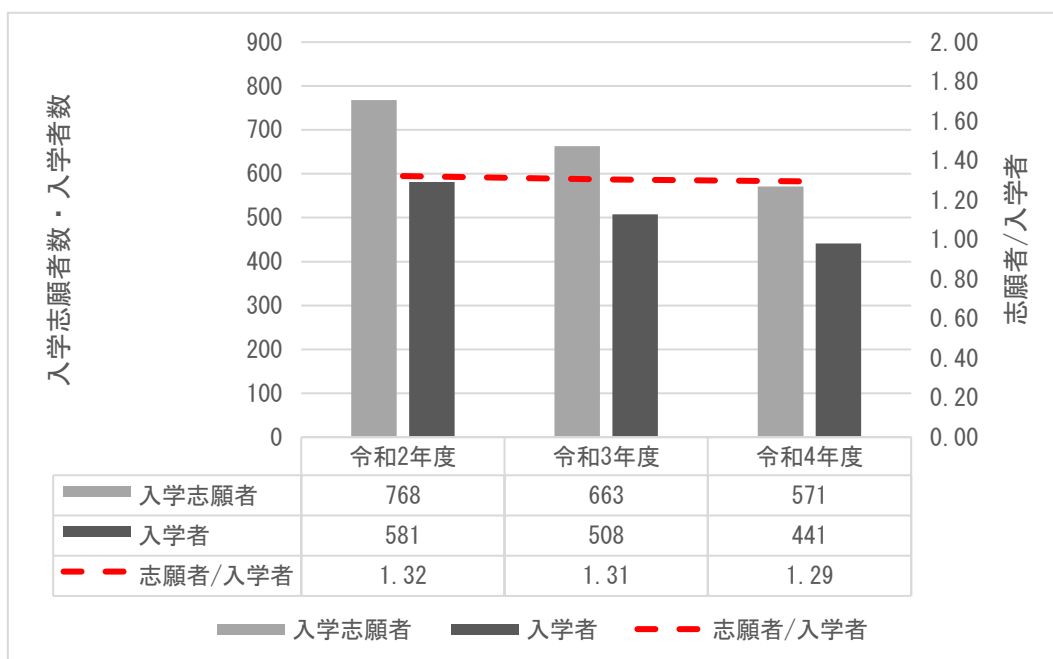
〔表 16〕 附属音楽・バレエ教室からの本学入学者数

	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	平均
入学者数	4	4	1	1	2	2.4

以上のとおり、オープンキャンパス等の募集広報イベントの参加者数及び満足度等を踏まえ、令和6年度の変更後の入学定員70名は、高等学校からの学生確保の視点上も十分な推定値であると考えている。

B 分野の動向

学校基本調査（図3）のデータを基に、短期大学 音楽系統の入学者等を分析すると、入学志願者は、令和4年度は令和2年度の74.3%、入学者数は75.9%となっており、減少傾向にある。しかしながら、志願者に対する入学者の割合は、令和2年度（1.32）と令和4年度（1.29）の差は僅か0.03に留まっている。



〔図3〕 短期大学 「音楽」系統への入学者数等（学校基本調査）

C 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

18歳人口の長期的動向（平成28年から令和9年までの12年間）について、平成28年（1,198,290名）と令和9年（1,050,107名）の比較において人口の増減率を算出すると0.88倍となり、減少傾向である（図1「18歳人口予測2016～2027年」）。また、中期的動向（令和5年から令和9年までの5年間）を確認すると、令和5年と令和9年の比較において、人口の増減率は1.00倍である。さらに神奈川県・東京都について同様の方法で確認すると、長期的な人口の増減率は0.96倍であり、中期的な人口増減率は1.05倍である。全国的に見た18歳人口の長期的動向は減少傾向であるが、神奈川県・東京都で見た場合の長期的動向、及び全国的、神奈川県・東京都の両方で見た場合の中期的動向においては、概ね横ばいで推移していることが確認できる。

D 競合校の状況

次の競合校の分析においても、入学者数は以下のとおり横ばいもしくは減少傾向にある（表17）。

〔表 17〕 競合校の入学定員充足率（本学含む）

短期大学名	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
昭和音楽大学短期大学部（神奈川県）	1.07	0.75	0.64	0.82
桐朋学園芸術短期大学 芸術科（東京都） ※演劇専攻含む	1.00	0.85	0.88	0.91
上野学園大学短期大学部（東京都）	0.80	0.74	0.70	0.75
東邦音楽短期大学（東京都）	0.38	0.26	0.26	0.30

※各大学公式ホームページ掲載情報を基に本学にて集計

E. 既設学部等の学生確保の状況

本学は音楽科 1 学科のみで既設学部を持たないため、該当の記載なし。

F その他、申請者において検討・分析した事項

収容定員を変更する学部等の入学志願状況について、前掲の表「本学における学生確保の状況」（表 1）の通り、過去 5 年間の志願者数、入学者数は減少傾向にある。しかしながら、令和 4 年度から令和 5 年度にかけては、数値がやや上向いている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が小さくなった等の影響と思われる、今後も増加傾向が続くものと思われる。但し、18 歳人口や短期大学、音楽系統への進学者数等の状況を考慮すると限定的なものであり、微増の段階に留まるものと分析している。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

【講習会】

年間 40 回を超える講習会を開催する。具体的には、夏期講習会（8 月）、秋から行う受験講習会（9 月・10 月・11 月・1 月）、冬期講習会（12 月）ならびに全国の都市で 4 月から 7 月にかけて行う受験講習会（令和 5 年度は 32 都市で開催予定）によって音楽の実技や理論を中心としたレッスンをを行うことで、受験に向けた指導と音楽大学への進学意欲の向上を狙う。進学希望者個々の要望に対応できるよう、個人レッスンやグループレッスン、オンラインレッスン等を提供する。とりわけ、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、令和 4 年度に大幅に通学圏外の志願者数が減った点に対処するため、各講習会を活用して志願者数の回復に取り組んでいる。志願者数が減った地域としては、

中部（令和3年度と比べて4名減）、九州（令和3年度と比べて6名減）が挙げられる。都道府県別に見ると、中部は山梨県や岐阜県、九州は福岡県が減少している。音楽科のある高校は全国に設置されているため、新型コロナウイルスの感染が減少し、行動制限が解除となった場合は回復すると予想している。そのための取り組みとして、令和3年度より全国での講習会を再開し、令和4年度は、大幅に入学者が減少した上記の県全てにおいて講習会の開催を実施した。その結果、令和5年度は94名に志願者数が回復した。同様の取り組みを継続することで、今後も志願者増の効果が見込まれる【資料9】。

〔表18〕 本学の地域別志願者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
北海道	0	6	2	2	1	2.2
東北	10	11	6	7	3	7.4
関東（通学圏内）	72	79	64	60	59	66.8
北陸	8	12	5	0	5	6.0
中部	11	20	11	7	11	12.0
近畿	1	3	3	0	0	1.4
中国	2	6	2	1	2	2.6
四国	6	6	7	4	4	5.4
九州	8	6	9	3	7	6.6
沖縄	1	2	0	0	1	0.8
海外	0	1	1	0	1	0.6
志願者数	119	152	110	84	94	111.8

【受験対策スクール Pathways（パスウェイズ）】

令和4年9月より、本学の教員によるレッスンを継続的に受けることができるよう、受験対策を目的としたクラスを新設。受験に向けた指導と音楽大学への進学意欲の向上を狙う。本スクールの入室者数は令和5年5月時点で延べ74名。本スクールの入室者からの令和5年度の本学への入学者数は2名。同様の取り組みを継続することで、今後も入学者増の効果が見込まれる【資料8】。

【オープンキャンパス・進学説明会】

年間13回のオープンキャンパスを開催し、本学の施設見学やレッスン風景、体験レッスン等を実施する。進学希望者個々の相談に対応できるよう、個別相談を必ず設定している。加えてオンラインでの講習会やオープンキャンパスを開催することで、通学圏外（関

東以外)の希望者も参加ができるようにする。

また、高等学校や主要都市で実施される進学説明会・ガイダンスに参加することで受験生との接触を増やす活動や、高等学校に直接訪問し音楽教員と情報交換をする取り組みを進め、学生の確保に努めていく。また、オープンキャンパス・進学説明会の開催を告知するとともに、社会人の入学希望者に対する個別相談等を別途設ける等の対応により、オープンキャンパス・進学説明会を通じた社会人の受け入れにも重点的に取り組む【資料9】。

【パンフレットの作成・配付】

本学はガイドブックを3月下旬に作成し、学内外に向けてPR活動を行っている。ガイドブックは、資料希望者や講習会・説明会参加者だけではなく、全国の音楽指導者、学校、楽器店等に送付する。またガイドブックだけではなく、新コース専用のリーフレットを作成し、希望者の関心を高める方策にも努めていく。さらに英文の紹介パンフレットも作成しており、近年、志願者が増加傾向にある留学生等への対応も行っている。

【インターネットにおける取り組み】

①ウェブサイトの作成

本学のウェブサイトによってPR活動を行う。令和5年4月にウェブサイトの全面リニューアルを行い、入試・受験生向けページの動線等の見直しを行った。毎年情報等はリニューアルするとともに、演奏会の情報や講習会・説明会情報等は頻繁に更新していく。また興味・関心の高い情報も発信していく。さらに留学生へのPR活動として、日本語のホームページだけではなく、英語のホームページも開設している。

②その他インターネット媒体での取り組み

本学ではLINEとTwitter、Instagramにより情報発信を行う。また、インターネット上の音楽大学進学情報サイトやリスティング広告等も積極的に活用し、講習会やオープンキャンパスへの参加者や本学の資料請求者の獲得に努めていく。

【その他の広報活動】

音楽専門雑誌等に情報を掲載し、講習会や説明会等の開催について積極的に広報することで、学生の確保に努める。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の建学の精神は、「礼・節・技の人間教育」で、礼節を重んじ豊かな人間性と教養を身につけた個性ある音楽家を育成することにある。その建学の精神の基に本学では人材養成目的およびディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー（以下、3つのポリシー）を以下のとおり定めている。

3つのポリシーには、音楽科にあるコースそれぞれの学びの特長が具体的に学生に伝わるようコース名を表記している。3つのポリシーのうち、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー専門的能力、学士力に分け、さらに専門的能力の下に「基礎力」「技術力」「専門知識」「アンサンブル能力」「他のジャンルに対する理解力」を、学士力の下に、「知識・理解」「汎用的能力」「態度・志向性」「創造的思考力」を設定し、それらの能力が獲得できるよう授業科目を配置している。

1. 人材養成目的

本学は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を育成するために専門教育を行う。

2. ディプロマ・ポリシー

本学は「礼・節・技の人間教育」を建学の精神とし、各々の専門分野における実践的な能力を備えた教養豊かな人材を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を踏まえ、さらに、短期大学士として身につけるべき資質・能力である「学士力」を踏まえて、本学は、各コースの所定のカリキュラムにおいて下記の能力を学修成果（専門的能力、汎用的能力、態度・志向性）として獲得し、厳格な成績評価のもとに単位を修得した者に対し、卒業を認定し、各々の専門分野に応じて短期大学士（音楽）または短期大学士（芸術）の学位を授与します。

ピアノ、電子オルガン、弦・管・打楽器、ウインドシンフォニー、声楽、合唱指導者、デジタルミュージック、ポップ&ロックミュージック、ジャズ、音楽教養、音楽と社会 各コース 【短期大学士（音楽）】

○専門的能力として、以下を獲得したことが確認できること。

- ・基礎力：専攻実技、ソルフェージュ、音楽理論等の基礎力。
- ・技術力：基礎力に裏打ちされた演奏技術。
- ・専門知識：専門分野における理論や歴史、作曲家や作品についての理解。およびそれ

らの演奏表現への活用。

- ・アンサンブル能力：さまざまな形態のアンサンブルによる多様な表現力。
- ・他のジャンルに対する理解力：音楽をはじめとする芸術の幅広いジャンルを理解する力。

○短期大学士として、以下を獲得したことが確認できること。

1. 知識・理解として、以下を獲得したことが確認できること。
 - ・多文化・異文化に関する知識と理解：専門分野の知識を体系的に理解する。
 - ・文化、社会と自然に関する知識と理解：専門分野の知識体系を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。
2. 汎用的能力として、以下を獲得したことが確認できること。
 - ・コミュニケーション能力：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる能力。
 - ・情報活用能力：情報を的確に収集・分析・取捨選択し、モラルに則って適切に管理・活用する能力。
 - ・論理的思考力：自分の考えをわかりやすく表現し、伝える能力。
 - ・課題解決力：多角的な考察に基づく現状分析力、課題発見能力。および目標を設定し論理的に課題を解決することができる能力。
3. 態度・志向性として、以下を獲得したことが確認できること。
 - ・自己管理能力：自らを律して行動できる。
 - ・チームワーク、リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
 - ・倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
 - ・社会的責任：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - ・生涯学習力：卒業後も自律・自立して学習できる。
4. 創造的思考力として、以下を獲得したことが確認できること。
 - ・創造的思考力：これまでに獲得した専門的能力と汎用的能力、態度・志向性とを結び付け、知識・技能等を総合的に活用して創造的な思考力を発揮する力。

バレエコース 【短期大学士（芸術）】

○専門的能力として、以下を獲得したことが確認できること。

- ・基礎力：バレエにおける基礎力。
- ・技術力：ダンサーとして活躍できる身体能力や感性豊かな表現力、創造力等。
- ・専門知識：バレエにおける理論や歴史、作品についての理解。およびそれらの表現への活用力。
- ・アンサンブル能力：バレエにおけるアンサンブルによる多様な表現力。
- ・他のジャンルに対する理解力：音楽をはじめとする芸術の幅広いジャンルを理解する力。

○短期大学士として、以下を獲得したことが確認できること。

1. 知識・理解として、以下を獲得したことが確認できること。

- ・多文化・異文化に関する知識と理解：専門分野の知識を体系的に理解する。
- ・文化、社会と自然に関する知識と理解：専門分野の知識体系を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

2. 汎用的能力として、以下を獲得したことが確認できること。

- ・コミュニケーション能力：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる能力。
- ・情報活用能力：情報を的確に収集・分析・取捨選択し、モラルに則って適切に管理・活用する能力。
- ・論理的思考力：自分の考えをわかりやすく表現し、伝える能力。
- ・課題解決力：多角的な考察に基づく現状分析力、課題発見能力。および目標を設定し論理的に課題を解決することができる能力。

3. 態度・志向性として、以下を獲得したことが確認できること。

- ・自己管理力：自らを律して行動できる。
- ・チームワーク、リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- ・倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- ・社会的責任：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
- ・生涯学習力：卒業後も自律・自立して学習できる。

4. 創造的思考力として、以下を獲得したことが確認できること。

- ・創造的思考力：これまでに獲得した専門的能力と汎用的能力、態度・志向性とを結び付け、知識・技能等を総合的に活用して創造的な思考力を発揮する力。

3. カリキュラム・ポリシー

本学は、建学の精神に基づき教育目的を達成するために、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、各コースの教育課程を編成しています。

学生は、本学のカリキュラムを2年間履修し卒業要件を満たすことにより、専門知識や技能に加えて、社会人として求められる汎用的能力、態度・志向性も学修成果として獲得することができます。

体系的な教育課程にしたがい学生が主体性をもって学修計画を立てられるよう、コースごとに履修年次を明記した教育課程を編成しています。「専門科目」、「外国語科目」、「教養科目」の科目区分を設け、それぞれ履修すべき単位数を定めています。

その中で、入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できるように、初年次教育科目は全学必修としています。また、「専門科目」、「教養科目」の中から、卒業後の進路や将来の目標を考える指針となる科目をキャリア科目として設定しています。さらに、すべての科目に対してカリキュラム・マップを作成し、科目ごとに獲得できる学修成果（専門的能力、学士力）を具体的に示しています。

学生の履修においては、1年間の履修単位に上限を設け、各科目の授業形態や成績評価方法等についてはシラバスに明記します。また、単位の実質化を図るため、授業外学修を明確に指示しています。

ピアノ、電子オルガン、弦・管・打楽器、ウインドシンフォニー、声楽、合唱指導者、デジタルミュージック、ポップ&ロックミュージック、ジャズ、音楽教養、音楽と社会
各コース

○専門的能力

主に「専門科目」を通して、以下を獲得する。

- ・基礎力：初年次に、特に主専攻実技の基礎力を確実に身につける。経験や実力に応じてソルフェージュや音楽理論を基礎から学ぶ。副科実技によって、専門的能力の幅を広げる。
- ・技術力：徹底した実技指導を通し、各個人の演奏能力や表現力、創造力等を高める。成果発表等の実践を通して技術力を身につける。
- ・専門知識：音楽理論や西洋音楽史の学修を通して、作曲家や作品について理解する。各コースの特色ある必修の専門科目によって知識を深め、コースの枠を超えた多様な専門科目を選択履修することによって、知識の幅を広げる。
- ・アンサンブル能力：各々の専門分野において、合奏、合唱、連弾等を経験し、さまざま

まな形態のアンサンブルによる多様な表現を身につける。

- ・他のジャンルに対する理解力：副科実技を通して、また専攻と異なるジャンルに関する選択科目を通して、音楽や芸術の幅広いジャンルを理解する。

○学士力

「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の学修を通して、以下を獲得する。授業内容および主体的学修において、実技・演習形態の授業や、レポート作成、プレゼンテーション等の機会を通して、以下を獲得する。

1. 知識・理解：多文化・異文化に関する知識と理解、文化、社会と自然に関する知識と理解
2. 汎用的能力：コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、課題解決力
3. 態度・志向性：自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力
4. 創造的思考力：主体的な学修によって獲得した知識・技能を、さまざまな場面で自ら創造的に活用する。特に最終年次において、卒業研究、卒業公演等に取り組むことや、実技試験の際のプレゼンテーションを通して獲得する。

バレエコース

○専門的能力

主に「専門科目」を通して、以下を獲得する。

- ・基礎力：初年次に、特にバレエの基礎力を確実に身につける。経験や実力に応じてソルフェージュや音楽理論、また副科実技によって、音楽に関する基礎力の幅を広げる。
- ・技術力：演習科目による徹底した実技指導を通して、各個人の能力や表現力等を高める。成果発表を経験して、技術を実践的に身につける。
- ・専門知識：特色ある必修の専門科目を通してバレエに関する知識を深め、コースの枠を超えた多様な専門科目を選択履修することによって、知識の幅を広げる。
- ・アンサンブル能力：演習科目による徹底した実技指導を通して、バレエにおけるさまざまな形態のアンサンブルによる多様な表現を身につける。
- ・他のジャンルに対する理解力：副科実技を通して、また専攻と異なるジャンルに関する選択科目を通して、音楽や芸術の幅広いジャンルを理解する。

○学士力

「教養科目」「外国語科目」、「専門科目」の学修を通して、以下を獲得する。授業内容および主体的学修において、実技・演習形態の授業や、レポート作成、プレゼンテーシ

ョン等の機会を通して、以下を獲得する。

1. 知識・理解：多文化・異文化に関する知識と理解、文化、社会と自然に関する知識と理解
2. 汎用的能力：コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、課題解決力
3. 態度・志向性：自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力
4. 創造的思考力：主体的な学修によって獲得した知識・技能を、さまざまな場面で自ら創造的に活用する。特に最終年次において、卒業公演等に取り組むことを通じて獲得する。

4. アドミッション・ポリシー

本学は、「礼・節・技の人間教育」を建学の精神とし、各々の専門分野における実践的な能力を備えた教養豊かな人材を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を理解し、意欲あふれる人物を受け入れます。

デジタルミュージック、声楽、声とことばの創造表現、合唱指導者、ピアノ、電子オルガン、弦・管・打楽器、ウインドシンフォニー、ジャズ、ポップ&ロックミュージック、音楽教養、音楽と社会 各コース

○求める人物像

次の要素を備えた人物を求めます。

1. 知識・技能
 - ・音楽・芸術の各分野に応じた基礎的知識および技能
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・音楽・芸術について思考し、判断し、自ら表現する力
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・多様な人々の中で、主体性を持って意欲的に学ぶ態度

○入学後の期待

入学時に求められる上記の1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をもとに、将来、幅広い音楽的教養を活かして社会に貢献するために必要な基盤を獲得することを期待します。

○入学者選抜方式

本学では、各コースの入学者選抜課題および入学希望理由書・活動報告書の内容を、多面的・総合的に評価・判定します。具体的には次のとおりです。

1. 「総合型選抜」では、知識・技能および思考力・判断力・表現力については個別検査（実技試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により評価し、入学者を選抜する。
2. 「特待生選抜」では、音楽の勉学に対する強い意志を有する者のうち、知識・技能および思考力・判断力・表現力については個別検査（作文、一般科目、実技試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により総合的に評価し、入学者を選抜する。
3. 「学校推薦型選抜」では、音楽の勉学に意欲があり、出身高等学校長が特に推薦する本学を専願する者のうち、知識・技能および思考力・判断力・表現力については個別検査（実技試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により評価し、入学者を選抜する。
4. 「一般選抜」では、知識・技能および思考力・判断力・表現力については大学入学共通テストまたは個別学力検査（実技試験、一般科目試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により評価し、入学者を選抜する。
なお、コース別試験科目における配点と具体的な評価方法・評価の観点等については『入学者選抜要項』に示しています。

バレエコース

○求める人物像

次の要素を備えた人物を求めます。

1. 知識・技能
 - ・バレエにおける基礎的な知識および技能
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・音楽・芸術について思考し、判断し、自ら表現する力
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・多様な人々の中で、主体性を持って意欲的に学ぶ態度

○入学後の期待

入学時に求められる上記の 1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 をもとに、将来、幅広い音楽的教養を活かして社会に貢献するために必要な基盤を獲得することを期待します。

○入学者選抜方式

本学では、各コースの入学者選抜課題および入学希望理由書・活動報告書の内容を、多面的・総合的に評価・判定します。具体的には次のとおりです。

1. 「総合型選抜」では、知識・技能および思考力・判断力・表現力については個別検査（実技試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により評価し、入学者を選抜する。
2. 「特待生選抜」では、音楽の勉学に対する強い意志を有する者のうち、知識・技能および思考力・判断力・表現力については個別検査（作文、一般科目、実技試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により総合的に評価し、入学者を選抜する。
3. 「学校推薦型選抜」では、音楽の勉学に意欲があり、出身高等学校長が特に推薦する本学を専願する者のうち、知識・技能および思考力・判断力・表現力については個別検査（実技試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により評価し、入学者を選抜する。
4. 「一般選抜」では、知識・技能および思考力・判断力・表現力については大学入学共通テストまたは個別学力検査（実技試験、一般科目試験等）により、また、主体性を持って多様な人々の中で意欲的に学ぶ態度については面接および出願書類（調査書、入学希望理由書、活動報告書等）により評価し、入学者を選抜する。

なお、コース別試験科目における配点と具体的な評価方法・評価の観点等については『入学者選抜要項』に示しています

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学の就職の過去3年間の就職状況は以下表19のとおりである。

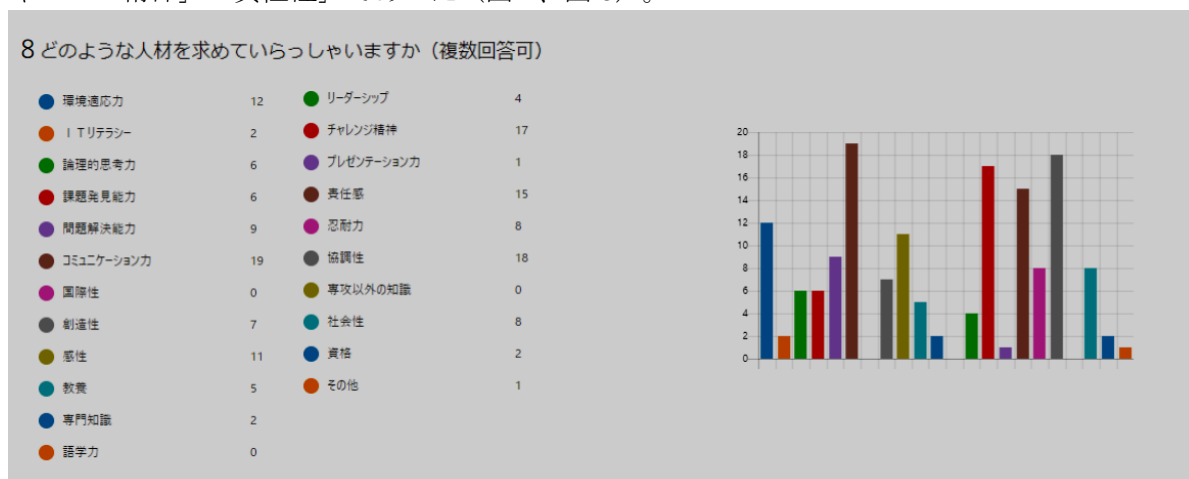
〔表19〕 就職の状況

音楽科		卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	求人社数	求人倍率
	令和2年度	76	29	25	86.2	7,987	275.4
	令和3年度	101	35	25	71.4	8,085	231.0
	令和4年度	74	25	18	72.0	8,187	327.5

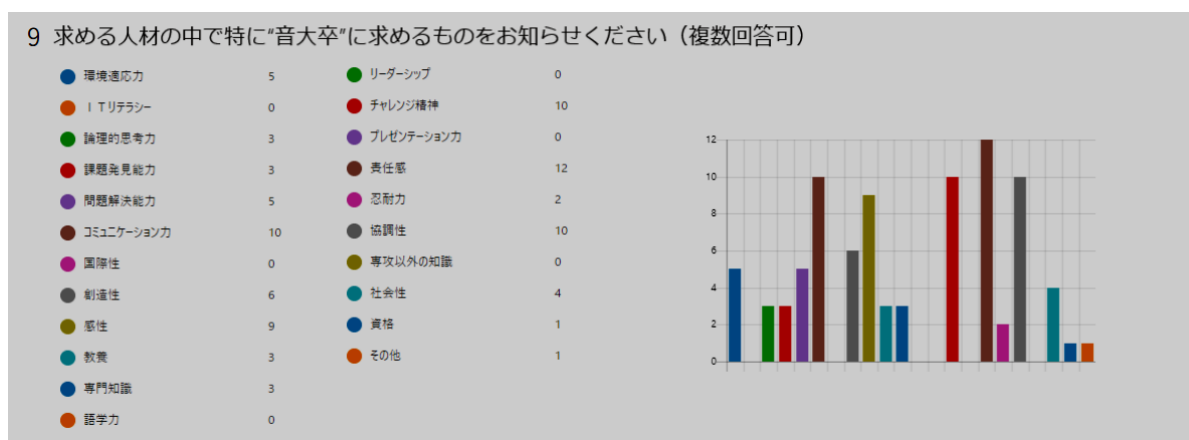
就職率は、就職希望者が実際に就職した割合であるが、卒業生のうち就職する者は例年約半数となっている。令和2年度の進路先の状況としては、就職者が25名、進学者が28名、無業者・未定者が23名となり、就職者の内訳は、中学・高等学校の教員等の教育・学修支援業を筆頭に、卸売・小売業、医療・福祉、生活関連サービス業、宿泊業等多岐にわたる。また、求人社数に対して就職希望者数の求人倍率は令和2年度275.4倍であった。コロナ禍においても高い倍率となっている。

音楽大学の短期大学では卒業後に企業就職だけではなく、進学、自己研鑽や留学準備、自活しての音楽活動等、様々なキャリアに対応する必要があるため、学生が1年次の際にキャリアセンターのキャリアコンサルタント(国家資格保有者)や就職相談員等による全員面談を実施し、学生個々の卒業後の進路先を把握するように努めている【資料10】。

さらに、キャリアセンターでは、本学卒業生の就職先である企業に令和3年10月にアンケート(併設大学と合同実施)を実施した。そのアンケートの設問の中で、「どのような人材を求めているか」「求める人材の中で特に“音大卒”に求めるものは何か」の設問に対して共通して回答の多かったもの(10社以上)が、「コミュニケーション力」「協調性」「チャレンジ精神」「責任性」であった(図4、図5)。



〔図4〕 卒業生の就職先企業へのアンケート：求める人材



〔図5〕 卒業生の就職先企業へのアンケート：“音大卒”に求めるもの

本学のディプロマ・ポリシーにおいて、「コミュニケーション力」は、「汎用的能力」の中にコミュニケーション能力として獲得できることを明記、「協調性」は「態度・志向性」の中にチームワーク・リーダーシップが獲得できることを明記、「責任性」は「態度・志向性」の中に社会的責任が獲得できることを明記している。本学の人材養成に関する目的が社会的、地域的な人材需要の動向をふまえたものであることが確認できる。

また、本学では併設大学と合同で学外有識者会議を平成 28 年度から定期開催し、本学で設定しているカリキュラムの内容、学修成果ならびに入学者選抜が適切に行われているか、本学が定める 3 つのポリシーが適切か等、学外の視点から意見を聴く機会を設けている。この会議に招聘した学外有識者は、麻生区役所職員、川崎市文化財団理事長、地元企業の社長、弁護士、地元金融機関支店長、音楽関連企業社員等、地域社会で活躍している者、音楽業界に精通する者である。学外有識者から寄せられた様々な意見は、教職協働で運営する委員会組織で点検・確認し、カリキュラム運用の改善に活用している。

上記のほか、地域における連携事業に数多く参画、協力をしていることで、地域のニーズを直接的に聞く機会を設けている。